

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成28年8月15日（月）～平成28年8月21日（日）〔平成28年第33週〕の感染症発生状況

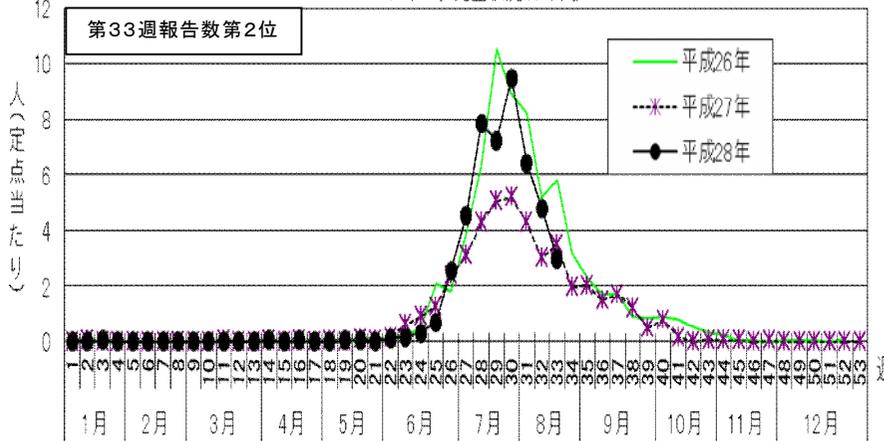
第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) 流行性耳下腺炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.63人と前週（3.69人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.00人と前週（4.78人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性耳下腺炎の定点当たり患者報告数は2.13人と前週（1.19人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



流行性耳下腺炎～全国的にも流行中～

平成27年秋頃から報告数の増加がみられている流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は、第33週（平成28年8月15日～8月21日）に定点当たり報告数が2.13人となり、過去10年間で最多となりました。

区別では、川崎区と多摩区で多くなっており、特に多摩区では定点あたり報告数が8.0人と警報基準値（6.0人）を超えました。

ウイルス感染



2～3週間後
(平均18日間)

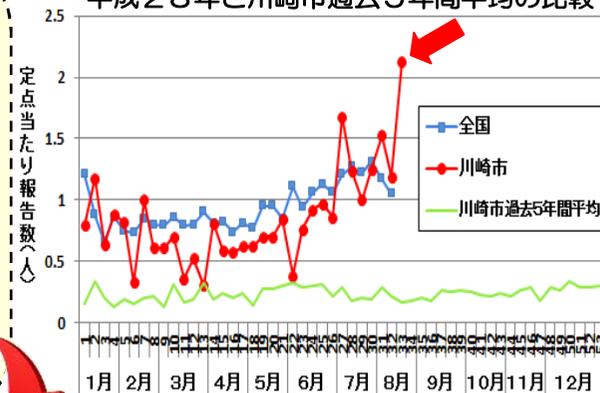
どんな症状？

唾液腺（両側ある
いは片側）の突然
の腫れ・痛み
(耳下腺が多い)



発熱

全国、川崎市の流行性耳下腺炎発生状況
-平成28年と川崎市過去5年間平均の比較-



合併症：基本的には軽症のまま治癒しますが、無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎、卵巣炎などを発症することがあり、妊婦が感染すると自然流産することもあります。